



双塔

カトリック新潟教会

2015年12月
No. 331

神様の恵みを認識する力を

助任司祭 ナジ・エデルベルトウス

冬らしい風景が教会の辺りに見られるようになりました。司祭館の庭にある大きな木は冬木立（ふゆこだち）になりました。次の春まで、葉っぱの命を支える気候が戻るまで静かに待つ姿を私達に示してくれます。「私は静かに神を待つ」と云う詩編作者の歌（詩編 62）を思い出させる風景です。この木を植えた方に感謝の気持ちを1秒でも示したいです。そのおかげでクリスマスの飾りつけが簡単にでき、クリスマスを喜び迎える雰囲気を加えられるからです。この季節もあの木によって神の恩恵を見ることができるでしょう。

施設におられる先輩達はこの風景を見ることはできませんが、神の恵みが与えられ続けていることを聞いて共に喜ぶことは、信者に相応しいことではないかと思えます。神様の力によって、多くの人がクリスマスなど人に喜ばれる環境を造る努力をするようになります。新潟市内の多くの店にはクリスマス飾りやクリスマスに必要な物が11月からすでに見られます。それをみながら歩き回る親子も沢山見られます。冬籠りになった12月の団欒の恩恵の一つです。

典礼と聖書朗読に心を向けましょう。メシアを待つ模範となった洗礼者ヨハネのことが朗読される季節です。牢獄にいてもイエス様の話を聞こうとする方です。イエス様のなされた数々の奇跡を耳にしたヨハネは、神の力がイエス様に現れていると云うふうを受け止め喜んだそうです。謙虚な心を持っていたヨハネは、神の力の働きと恵みを見る目が与えられ、喜ぶことができたです（ヨハネ 3・29）。

ひとり子を与える程に、世を愛された御父の愛は今もなお変わりありません。恵みの源である神様は忠実な方だからです。神はご自分に信頼するすべての人に、恵みを見る目や、それが恵みであると認める力を惜しみなく下さるのです。その恵みがあれば、聖パウロが勧められる生き方（1テサロニケ 5・17）を実践して行くことが出来るからです。私達もその力を頂いて、今年の降誕祭を迎える恵みを含めて認識し、神様との親しさをよりよく体験し、喜ぶことが出来ますように願いましょう。





そよかせ便り



■信仰養成講座 ----- 11月7日(土)、21日(土) -----

昨年に引き続いて開催された菊地司教様による信仰養成講座のテーマは「教会の本性である宣教活動」(副題:教会憲章と Ad Gentes に学ぶ)。7日には約60名、21日には約50名が集まった。

第二バチカン公会議が1965年12月8日に閉幕してから今年で50年になる。公会議終了前日には「現代世界憲章」などとともに「教会の宣教活動に関する教令」(宣教教令、“Ad Gentes”=諸民族に)も発布された。そこでこの教令の発布50周年記念行事としての開催となった。

本題の「宣教教令」に入る前に、教会そのものについて確認する意味で、一回目の講座は「教会憲章」の再読と説明に充てられた。そこでは、教会を「神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり、いわば秘跡」としてとらえ、キリストの祭司職、王職、預言職にあずかるものとしてのキリスト者の姿が指摘された。

21日の講座では、教会の使命はイエスの宣教命令(マタイ28・19-20、マルコ16・28参照)を受けて派遣された使徒たちの働きを受け継ぐものであり、それは私たち一人ひとりの使命でもあると説明された。そして大切なことは「すべての人に対する神のいつくしみを示すこと」とし、「それぞれの小教区は、そこに来れば安らぎが得られる場、外から見て、あの人たちのところへ行ってみたい、仲間になりたいと思わせるような雰囲気でしょうか、それとも、その逆でしょうか。振り返ってみてください」と投げかけられた。

教会憲章も宣教教令も、神学校では一年かけてじっくり学ぶという。それを、わずか90分で、駆け足で概観する講座であったが、参加者には、次へつながる一歩となったのではないだろうか。

■子どものためのミサ 七五三祝福、ミニバザー ---- 11月8日(日) -----

聖堂には、幼児から中学3年生までの子どもたち10名ほどが最前列に並び、元気な聖歌が響いた。ラウール神父様は、待降節第1主日(11月29日)から実施される新しい典礼動作を子どもたちに分かりやすく説明しながらミサを進められ、集まった方々は子ども達のために祈り、七五三の祝福を笑顔で見守っていた。また、ナジ神父様に霊的花束が拍手とともに贈られた。ミサ後には、センターでミニバザーが行われ、寄付品や手作り品、団子などが販売されて大賑わい!センター入り口付近でも、子ども達が開いたフリーマーケットに多くの人が買い物を楽しんでいて、この日の収益金は、新潟教会と南相馬市の仮設住宅を運営する「真こころ」に半分ずつ寄付される。

■『王であるキリスト』の祝日、司教様の公式訪問 ----- 11月22日(日) -----

年間最後の主日『王であるキリスト』の祝日は、雲ひとつない快晴。聖堂では、公式訪問の菊地司教様の司式でミサが捧げられた。司教様は、お説教を「“テロとの戦い”という言葉が普通に聞かれるようになった」と始められ、「神から与えられた生命を人間が奪う行為は許されない。教皇様も一連のテロ事件について、暴力と憎しみで人間の問題を解決はできない。神の名によって正当化することは冒瀆である、と指摘された」と話された。「報復は憎しみの負の連鎖を深めるだけである。神がすべての支配者だと信じる私たちは、神の秩序が完全に実現している世界の構築をめざし、福音の言葉に生きる努力を続けましょう」と結ばれた。

ミサ後は、会場をセンター2Fに移し、茶話会が行われた。手作りのサンドイッチにコーヒー、お茶が用意され、みんなの笑顔が集合!ラウール神父様がベトナムの青年を紹介し、3人の自己紹介に会場から

は温かな拍手が湧いた。「メリーさんの羊」などを合唱し、最後に司教様の祝福を受け、和やかな雰囲気
のうちに終幕となった。

カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行 / カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656 TEL : 025-222-5024 FAX : 025-222-5054 <http://www.niigatacathedral.org>

